

彩小ふれあいだより

平成 23 年 5 月 9 日

6 年平和学習「被爆体験を聞く」

広島市立彩が丘小学校
校長 竹川 智子



4月25日(月)3・4校時、6年生対象「ひろしまを語り継ぐ教師の会」事務局長梶矢文昭先生をお招きして、被爆体験を聞く学習会をもちました。梶矢先生は、12年前に長束小学校校長を退職され、現在、平和学習や国語教育の指導者として活躍されています。6年生が毎年お話を聞かせていただき3年目になりました。梶矢先生は国民学校1年生の時に、被爆地より1.8^{キロ}の上大須賀町の自宅で被爆されました。ご自身が書かれた絵や当時の広島の絵地図を見せながら、その時の体験にもとづく原爆の惨状と、原爆投下までの歴史的背景をくわしく話してくださいました。子どもに大変わかりやすく話される内容は大変論理的で、子ども達はメモを取りながら、しっかり聞いていました。梶矢先生は、自分の残された命の中で、核兵器のない世界が人類にとって大事であることを強く訴えていきたい、また、東日本大震災のことに触れられ、被災地の人々に、広島原爆からの復興は大きな勇気を与えることができると言われました。子ども達にとって原爆のお話は昔のお話ではなく、世界で核兵器が初めて使われた広島に住む自分たちにとって今や未来につながる話であることを感じ取ってくれたのではないかと思います。梶矢先生のお話が終わったあと、高森くんが原子爆弾のおそろしさがよくわかりましたと言いました。堺くんや有田くん、白石くんが「核兵器と普通の爆弾の違い」「原子爆弾が落ちたとき広島城の様子」「鉄の不足はどうか」など、次々と質問がしました。梶矢先生もよい質問がでる彩が丘小の子ども達は素晴らしいとほめてくださいました。6年生は「平和な世の中にするために」意見文にまとめていきます。自分の生活の中で実践できる平和にも目を向けてしっかり考えてほしいと思います。

